

中央市読書調査結果

2011年度

中央市司書会

目 次

1. 調査目的.....	p. 1
2. 調査概要.....	p. 1
3. 調査方法.....	p. 1
4. 調査結果.....	p. 2
5. まとめ.....	p. 2 2

添付資料

- ・ 調査用紙等
- ・ 中央市読書調査結果
- ・ 全国学校図書館協議会第57回読書調査の結果

1. 調査目的

情報化の発展とともに、子どもをとりまく生活環境が変化するなか、活字離れや読解力の低下が叫ばれて久しい。中央市では、生涯にわたって読書に親しむまちづくりをめざして「子ども読書活動推進計画」に基づき、乳幼児とその保護者を対象としたブックスタートなどの事業をはじめ、図書館でのおはなし会、学校における朝読書、読書週間の取り組み、図書館の時間など、子どもたちが読書に関わる様々な機会を提供している。

毎年、全国学校図書館協議会が毎日新聞社と共同で行っている「学校読書調査」も2011年に第57回を迎え、子どもたちの読書の実態をまとめている。そのような取り組みの効果を検討し、さらに読書活動が推進されることを期して、中央市司書会としても読書調査3回目を実施した。

この調査は、中央市の子ども読書傾向を探り、その課題を考えるための資料とする。また、本市の読書活動推進についても考えるための資料とする。

2. 調査概要

「中央市子ども読書活動推進計画」（平成19年4月）に基づき、市内の小中学生の読書環境や読書状況の実態を把握することを目的に実施した。調査結果は、平成23年度中央市司書会の研究課題「学校図書館と公共図書館が連携して読書推進を図る」の参考資料として活用する。経年変化を見るために、調査を複数年実施する予定である。第3回目となる今年度の調査では、2年前の調査結果（平成21年度）を併記し、同じ児童生徒の読書傾向の変化を捉えやすくした。

3. 調査方法

中央市内の小学校2,4,6年生及び中学校2年生を対象とし、質問紙調査を行った。質問項目は、各学年とも同一内容とし、低学年に理解しにくい言葉は、わかりやすい言葉に置き換えた。

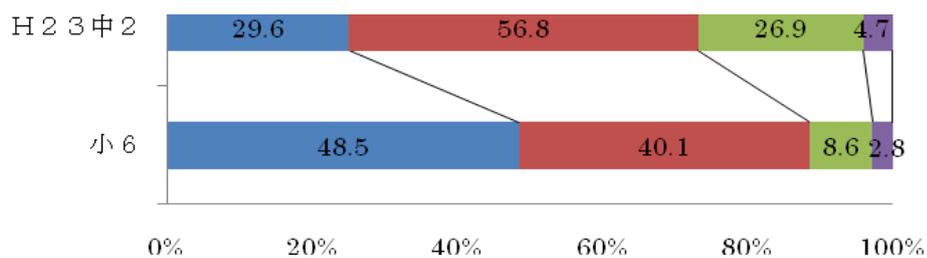
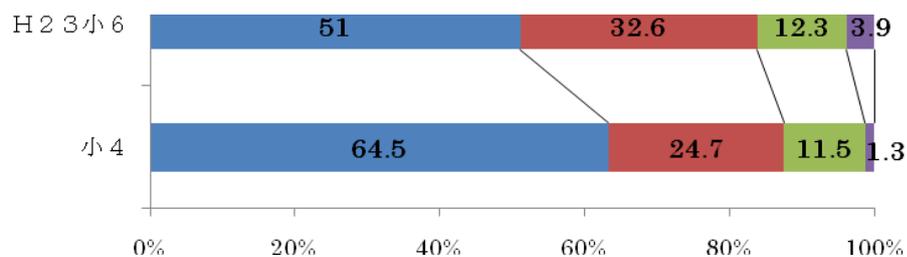
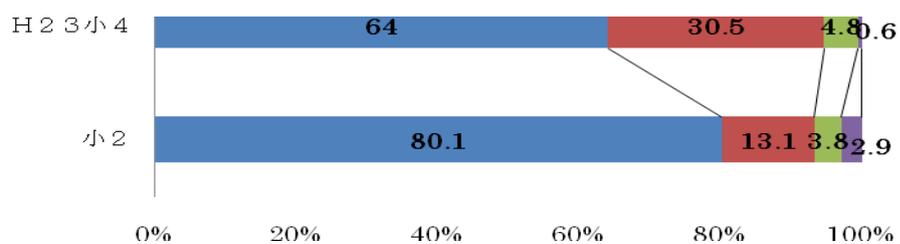
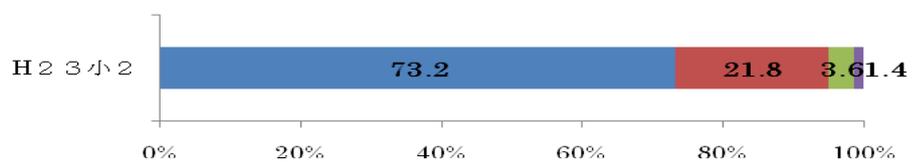
調査は平成23年5月1日から5月31日までの期間を対象とし、調査実施はそれ以降、各学校内で都合の良い日程で行われた。

集計は、学校ごとに行い、さらに中央市司書会が全体の集約を行った。

4. 調査結果

問1 あなたは、本を読むのが好きですか。(1つに○をつけてください)

■好き ■どちらかというときらい ■どちらかというときらい ■きらい



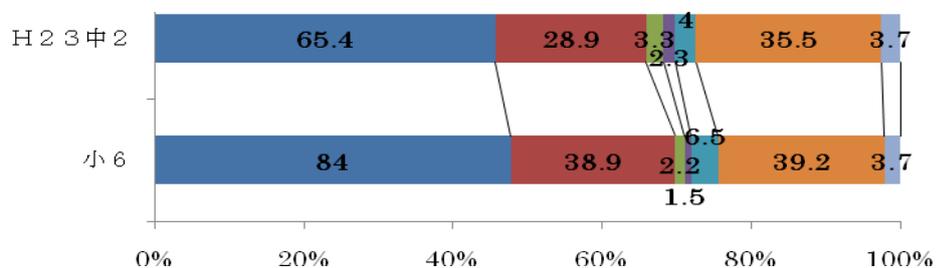
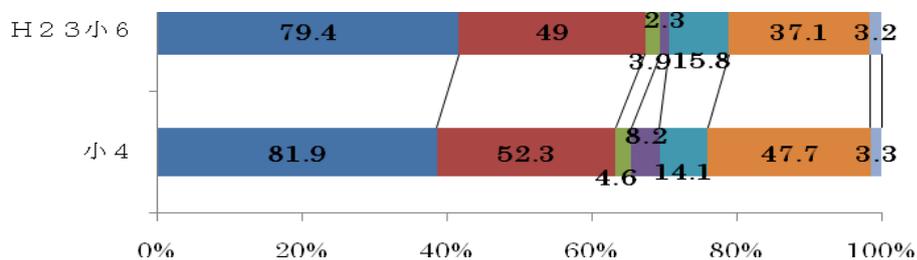
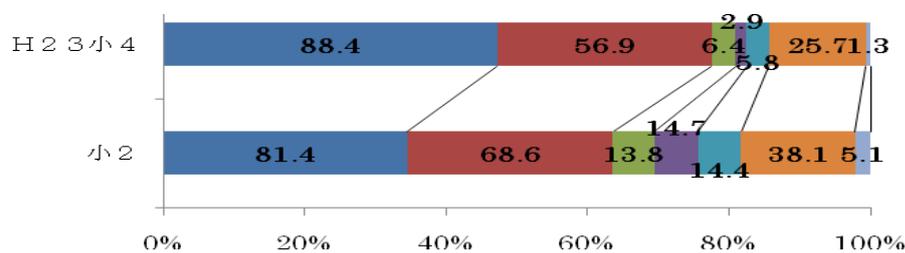
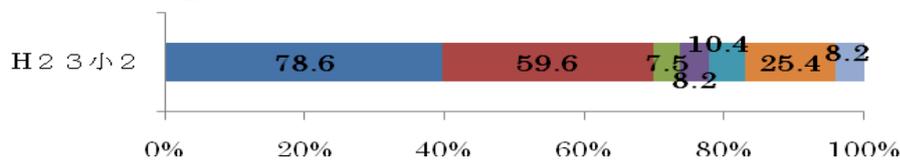
問1 中央市全体の分析

あなたは、本を読むのが好きですか

- ① 「好き」「どちらかというとき好き」と答えた子どもが大半を占めているが、学年が上がるほどその割合は低くなっており、読書を好まなくなる傾向がある。2年前の調査結果と比べても全学年が「好き」「どちらかというとき好き」と答えた児童生徒が減少している。
- ② 「どちらかというとき嫌い」「嫌い」と答えた子どもがどの学年にもいる。また、2年前と比べ「どちらかというとき嫌い」が増えている。6年生では4年時の約3倍と多く、本離れになっていく傾向がみられる。学年が上がるにつれて、読書に積極的でなくなっていく理由はどこにあるのか、多角面から探る必要がある。
- ③ 中2では、「好き」が小6時では約50%あったが、2年間の間に約19%低くなった。また、「どちらかというとき嫌い」「嫌い」の割合が約11%から約32%になっている。読書の楽しさを体感できるような様々な手立てを考えて、少しでも本に対しての抵抗感をなくしていくことが大切である。

問2 あなたが本を読むのはどうしてですか。(いくつでも○をつけて下さい。)

- おもしろいから・楽しいから
- 知らないことがわかるから
- 友だちが読むから
- 家族の人が読むから
- 先生や家族に言われて
- ひまだから
- その他



<その他の回答>

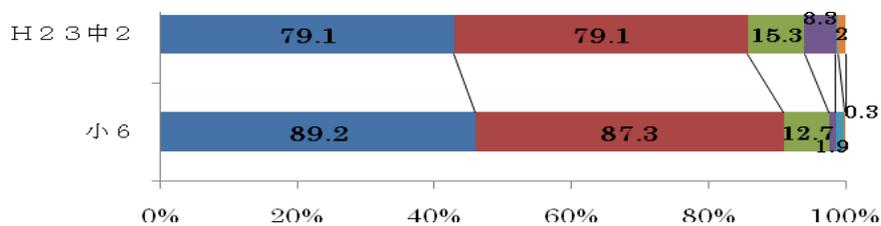
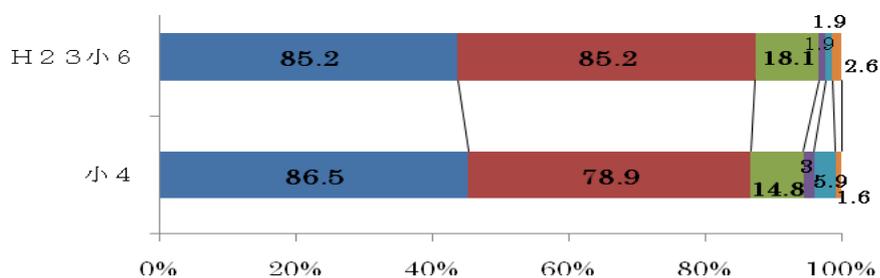
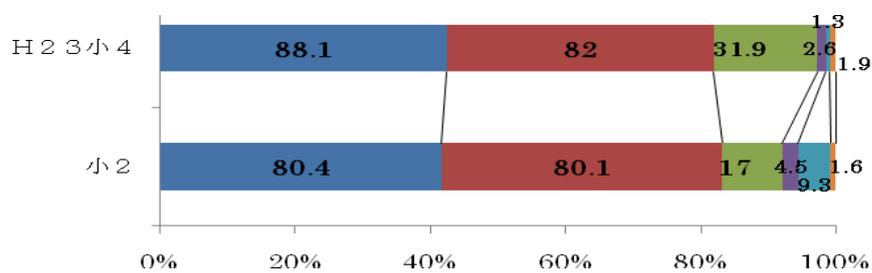
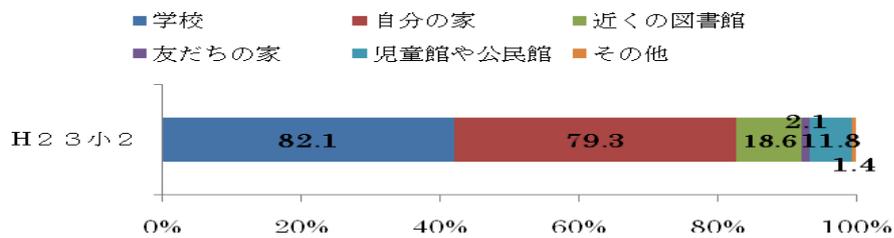
兄弟が読むから・題名がおもしろいから・外で遊べない時・静かに過ごしたい時・大人になって役に立つから・いろいろな言葉がわかるから・眠くなるために読む・空想の世界が広がるから・嫌なことがあっても忘れられるから・本の世界に入り夢が見られるから・朝の学習だから・ドキドキわくわくするから・趣味の本があるから・作者が何を伝えようとしているのかがわかるのが楽しい・学級文庫があるから・読みたい本のノベライズ版があるから・本の中の主人公になれるから・TV でやっているアニメが小説になるから

問2 中央市全体の分析

あなたが本を読むのはどうしてですか。

- ① どの学年も「おもしろいから・楽しいから」「知らないことがわかるから」と答える割合が多い。多くの児童生徒が、読書の楽しさや有効性を少なからず認識した上で、読書をしている傾向がある。しかし、中2では2年前の小6時よりその割合が格段に低くなっている。
- ② 今回の調査では中学生は「ひまだから」が2番目に多くなっている。知的好奇心を満たすための手段として読書があることを児童生徒に伝えていくことや、目的をもって積極的に読書をしていけるような環境づくりや読書指導も必要だと考える。
- ③ 学年が上がるにつれて、外部からの働きかけよりも、主体的に読書する傾向がある。

問3 あなたはどこで本を読むことが多いですか。(2つ選んで○をつけてください。)



<その他の回答>

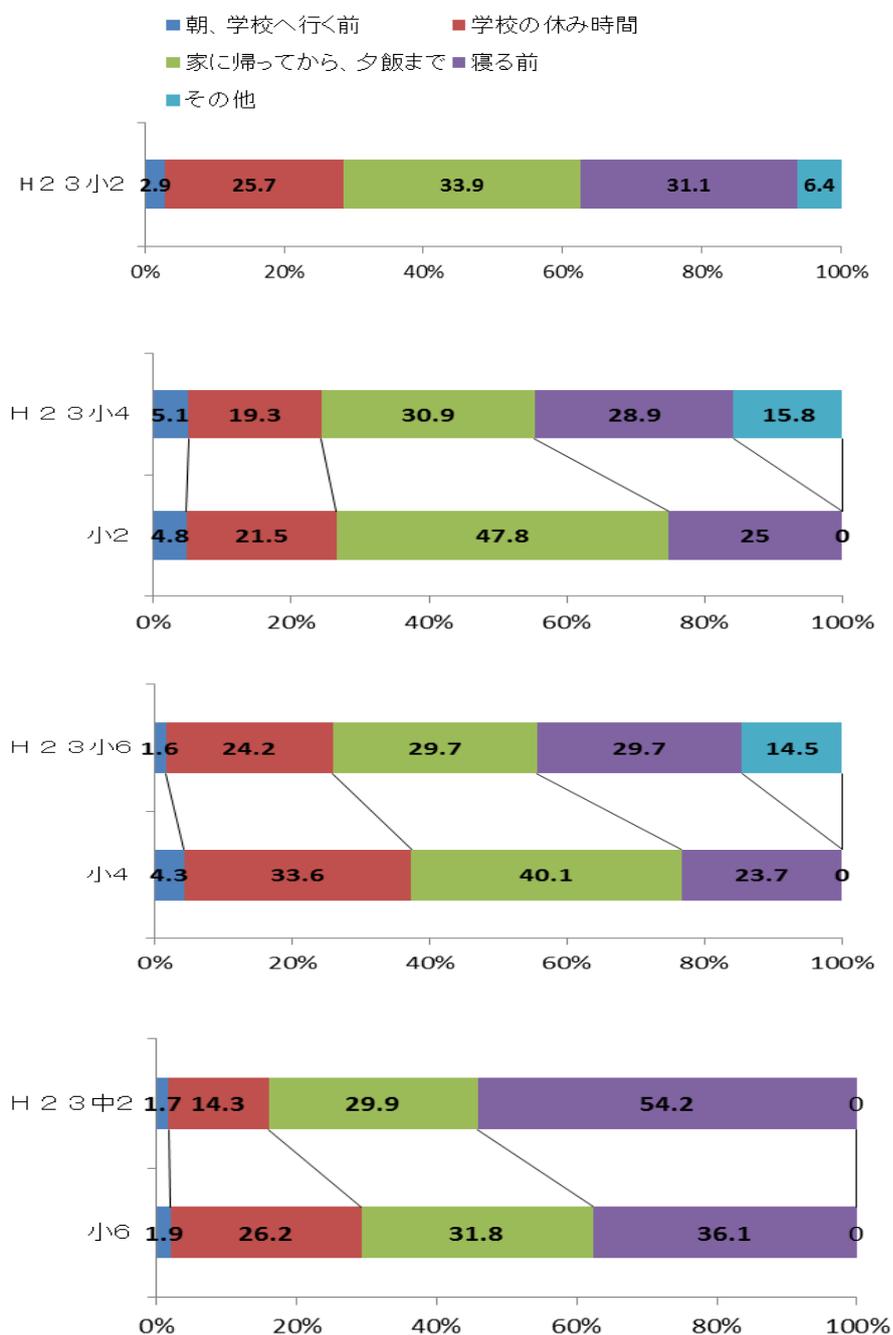
学校の図書館・書店・おばあちゃんの家・車の中・病院の待合室・自分のベッド・公園・庭・コンビニ

問3 中央市全体の分析

あなたはどこで本を読むことが多いですか。

- ① 小学校では週1回の図書の時間等が確保されていることで、子どもの読書活動に役立っている。そこで、中学校でも継続して読書をする時間の確保ができるような取り組みが望まれる。
- ② 「近くの図書館」はどの学年も20%前後である。「近くの図書館」と答えた児童生徒は、どの学年も2年前の調査より増加しており、公共図書館を利用している児童生徒が増加していることがわかる。また、「近くの図書館」は2年前と比較して学年が上がっても、利用の割合が増えている。
- ③ 学校以外の公共施設（近くの図書館や児童館・公民館）での読書が、さらに活性化し充実するような環境づくりや人材育成が必要である。

問4 あなたはいつ本を読むことが多いですか。(1つに○をつけてください。)



〈その他の回答〉

朝学習で・夏休み中・暇な時・宿題が終わってから・勉強が終わって早い時・読書タイム・土、日・図書の時間・朝の会が始まるまで・テストが早く終わった後・学校で読んで良い時・時間がある時 (いつとは決まっていない)

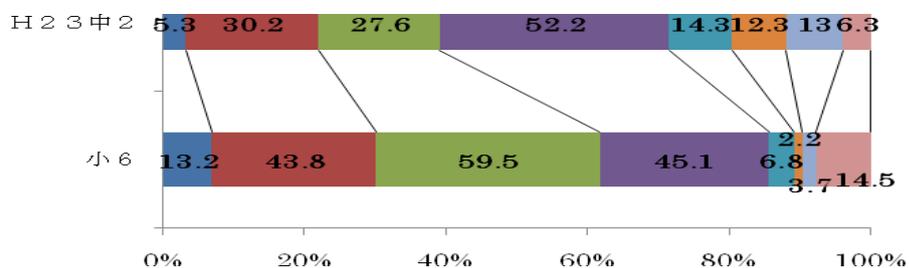
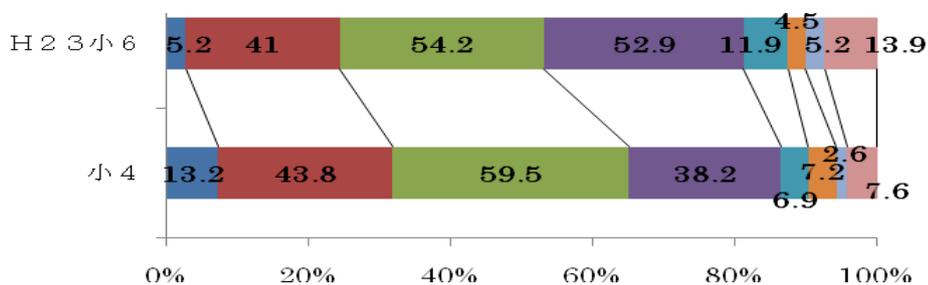
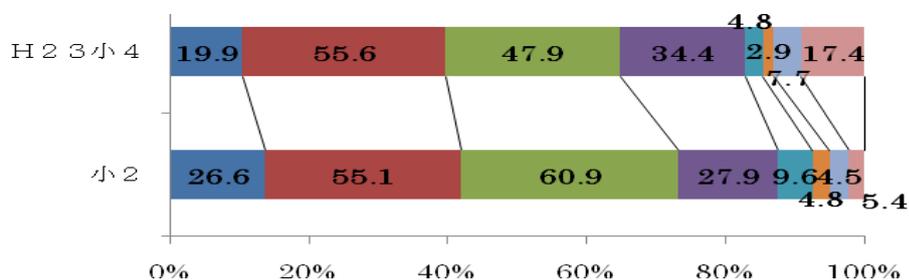
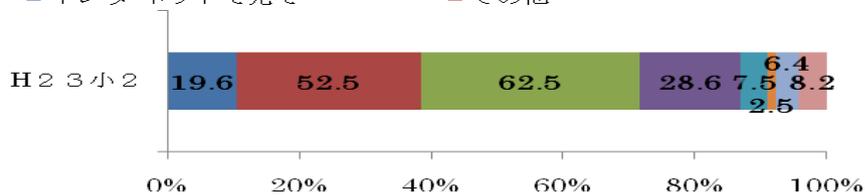
問4 中央市全体の分析

あなたはいつ本を読むことが多いですか。

- ① 2年前の調査より、家庭での読書が中2は少し増加しているが、小学校においては減少している。学校図書館や公共図書館が、家庭における読書環境づくりを支援していくことが課題である。
- ② 朝の読書や図書の時間という環境を利用して、少しでも読書習慣を定着していくことが望ましい。

問5 あなたは読みたい本をどうやって選びますか。(2つ選んで○をつけてください)

- 先生に聞いて
- 学校や市立図書館で見て
- テレビで見たりラジオで聞いて
- インターネットで見ても
- 友だちに聞いて
- 書店で見て
- 新聞や雑誌で見て
- その他



〈その他〉

家族に薦められて・絵や題で決める・好きな選手や芸能人などに関する本だから・ただなんとなく・自分の興味・好きなアニメが本を出したら・何巻も続く物語でおもしろそうな題名のもの・あらすじを読んでから・新しく出た本・読んでいない本をなるべく選ぶ・司書の先生が読んでくれたもの・図書だよりを見て・本をぺらぺらめくってみて・目に入った本・自分で調べて・外見で面白そうな本を選ぶ・表紙を見て・適当・おもしろそうか、楽しいかどうかで選ぶ・その時の気分・一冊目を読んでおもしろかったから

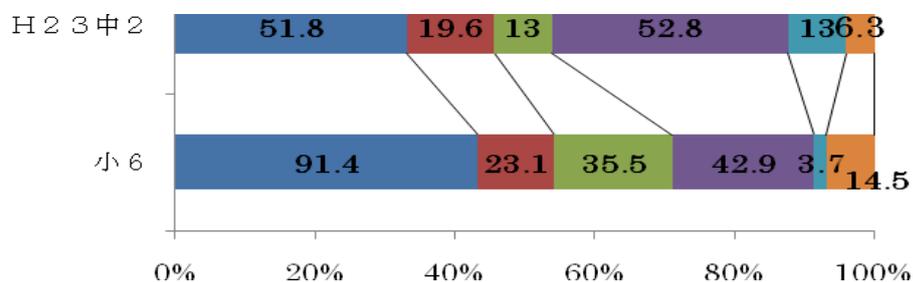
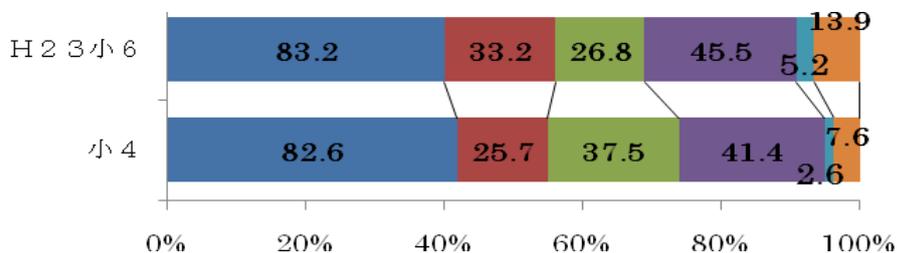
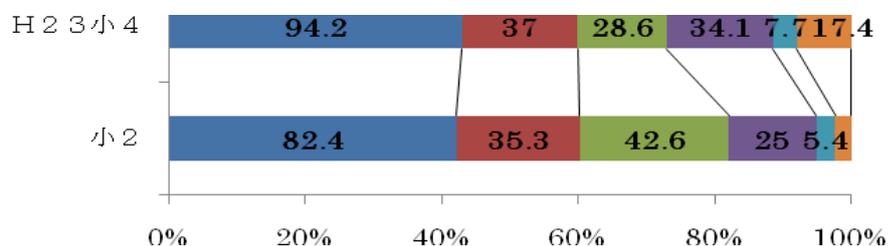
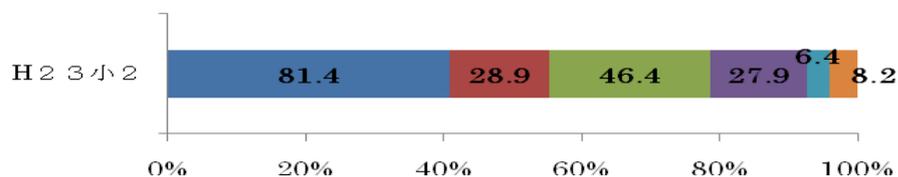
問5 中央市全体の分析

あなたは読みたい本をどうやって選びますか。

- ① 小学生は主に学校の中で本を選んでいる傾向がある。それに対して、中2はテレビ、ラジオ、新聞、雑誌、インターネット等の情報を得て、本を選ぶ生徒が全てにおいてそれぞれ10%を超え、2年前の6年時より増えている。中学生になると、情報の獲得手段が小学生と異なり、様々な媒体から本の情報を得るようになり、情報獲得手段が多様化してきている。
- ② 中2は、「学校や市立図書館で見て」が小6時よりも約32%も減っている。学校や市立図書館においては、生徒の多様な興味・関心などに応えられるように読書情報の発信に努めていきたい。

問6 あなたは、読む本をどのように手に入れることが多いですか。
 (2つ選んで○をつけてください)

- 学校図書館で借りる
- 近くの図書館で借りる
- 家にある本を読む
- 買う(買ってもらう)
- 友だちに借りる
- その他



その他)

兄弟の幼稚園や保育園で借りて読む・祖母に送ってもらう・いらなくなった本をもらった

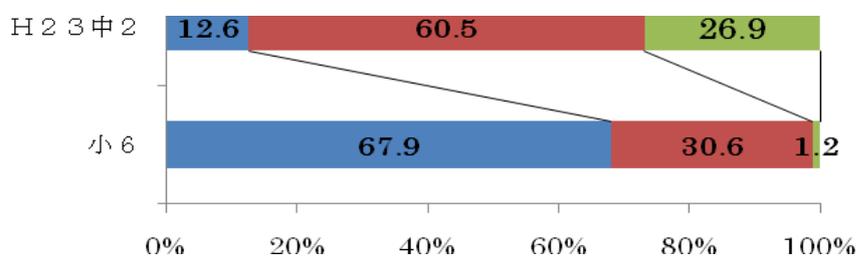
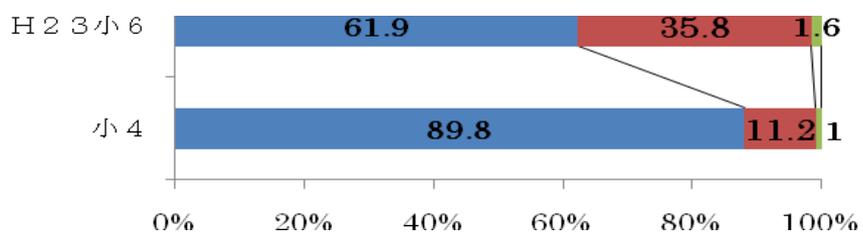
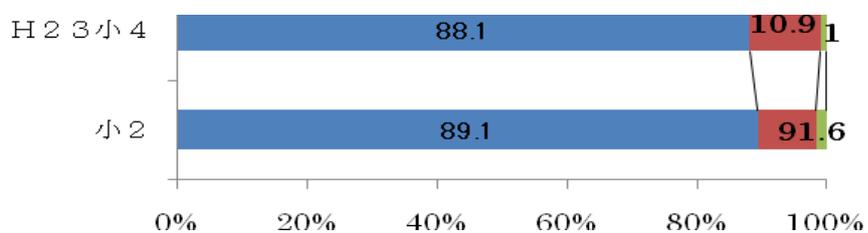
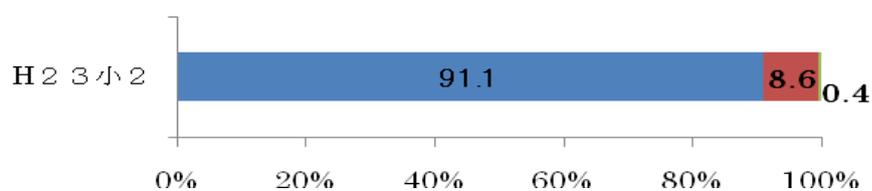
問6 中央市全体の分析

あなたは、読む本をどのように手に入れることが多いですか。

- ① 小学生は「学校図書館で借りる」と答えた児童が約80%以上を占め、中2では50%台となっている。学校図書館では、子どものニーズに適した図書の購入を心がけることが重要であるとともに、きめ細かな読書指導が課題である。
- ② 「近くの図書館で借りる」と答えた小学生は30%前後で中学生は約20%である。児童生徒の読書活動において、公共図書館がさらに利用されるような手立てを工夫する必要がある。
- ③ 「買う」という回答が、小6で約46%、中2で約53%ある。学年が上がるにつれてまた、2年前よりすべての学年で増加している。どのような本を買っているかにつかめないため、今後実態を把握するための調査も必要である。

問7 あなたは先月（平成23年5月）1か月の間に何冊の本を読みましたか。
（1つに○をつけてください）

■ 5冊以上 ■ 1冊から4冊 ■ 読まなかった



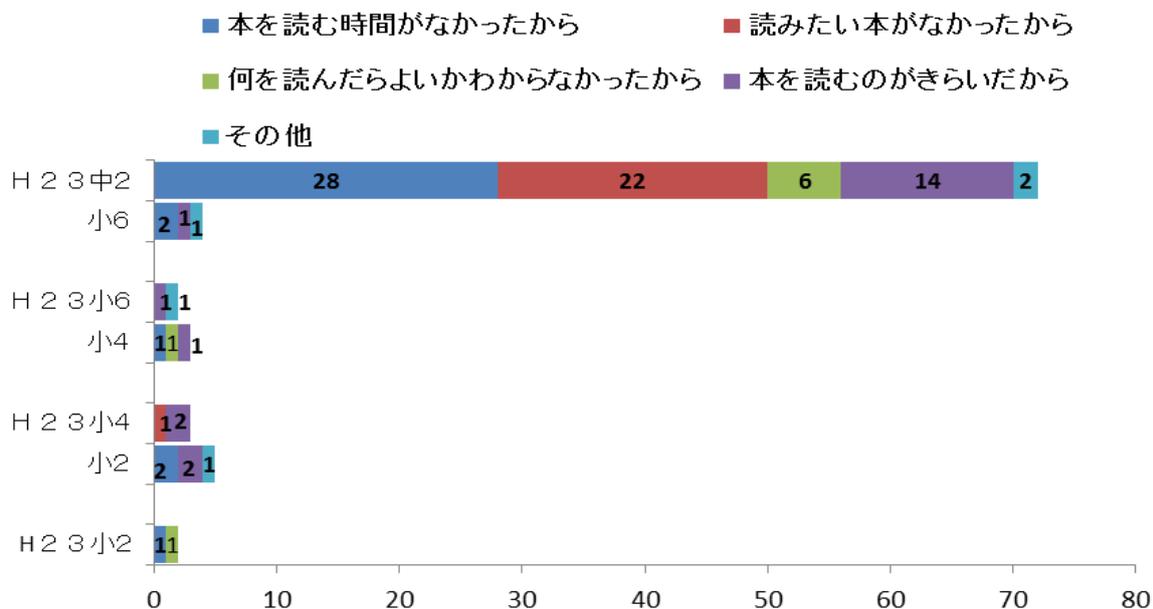
問7 中央市全体の分析

あなたは先月（平成23年5月）1か月の間に何冊の本を読みましたか。

- ① 全体の傾向では、学年が上がるにつれて多読者が減っている。
- ② 中2は、1冊以上読んでいるという答えが約61%ある。しかし、「読まなかった」生徒が約27%いることから、不読者ゼロを目標にしてきめ細かな対応を考えていく必要がある。

問8 7で、「3 読まなかった」を選んだ人だけ教えてください。なぜ本を読まなかったのですか。(1つに○をつけてください。)

※この数値は割合ではなく、度数で表記しています。



〈その他〉

面倒だった・自分が読もうとしなかったから・図書袋を忘れたから

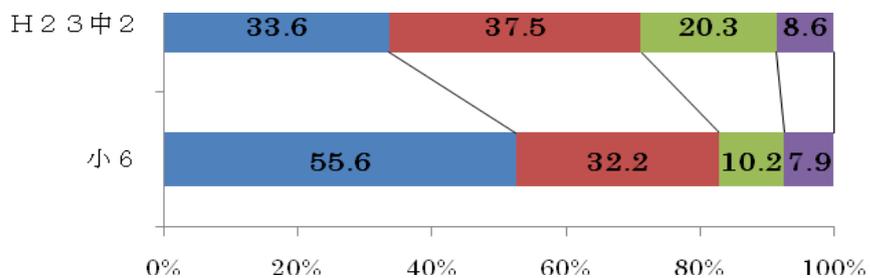
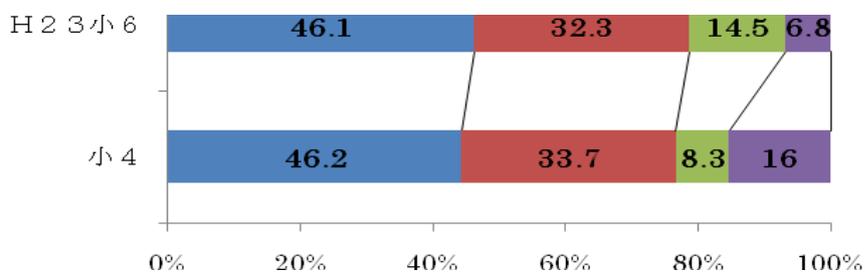
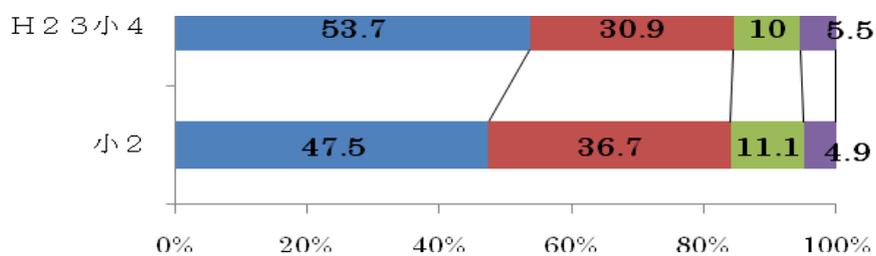
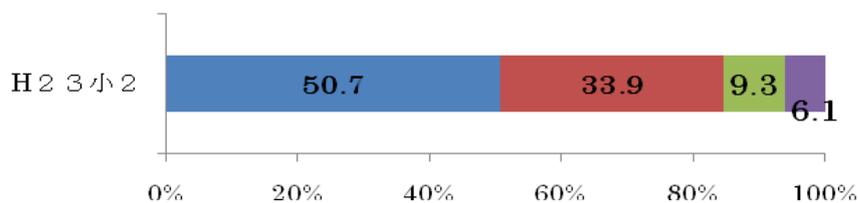
問8 中央市全体の分析

7で「3 読まなかった」を選んだ人だけ教えてください。なぜ本を読まなかったのですか。

- ① 「読みたい本がなかったから」という回答にも目を向け、どんな本が好きなのか、情報収集を積極的に行い、選書に反映していくことが必要である。また、「何を読んだらよいかわからなかった」という回答に対しては、継続的に地域・学校・家庭で、読書意欲を促すような手だてが必要である。
- ② 中2では、小6時より「本を読むのがきらいだから」という回答が増えている。原因がどのようなところにあるのかを検証していくことが今後の課題である。

問9 あなたは小学校に入る前、身近な人に本を読んでもらいましたか。
 (1つに○をつけてください。)

- よく読んでもらった
- ときどき読んでもらった
- あまり読んでもらわなかった
- 読んでもらわなかった



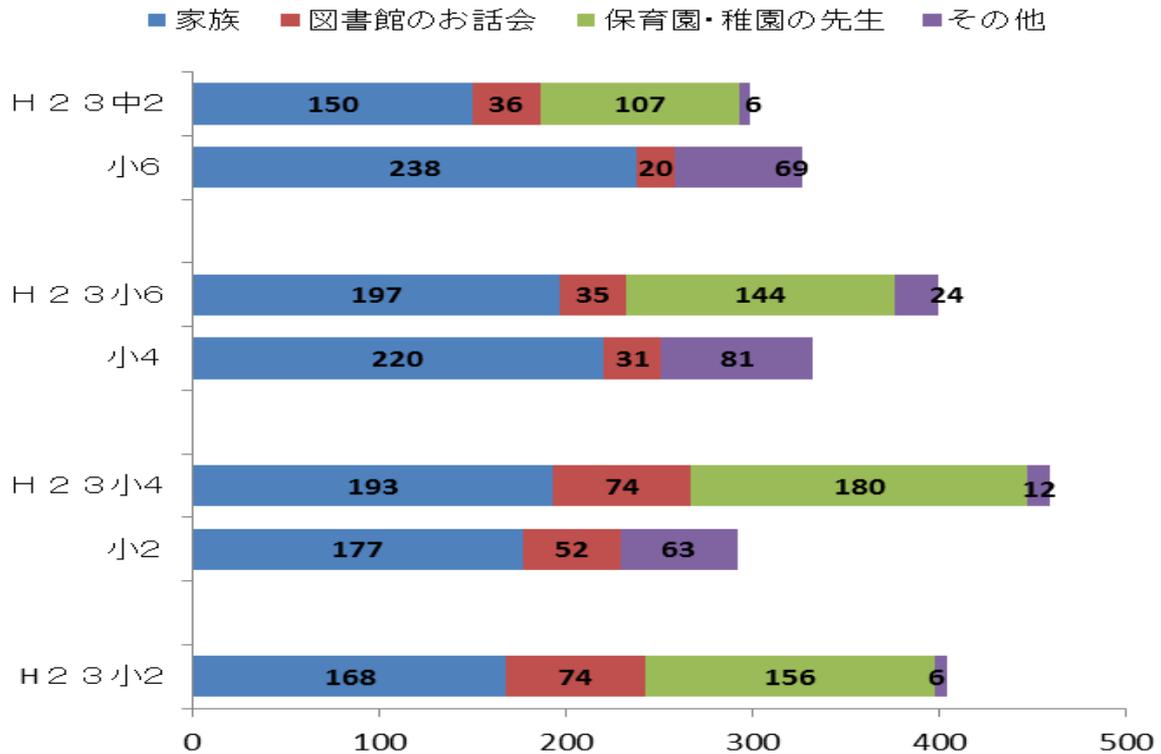
問9 中央市全体の分析

あなたは小学校に入る前、身近な人に本を読んでもらいましたか。

- ・読み聞かせをしてもらったという回答が多いことはとても好ましいが、家庭や保育園・幼稚園、公共図書館でのさらなる読書啓発が重要となる。

問10 9で、「1 よく読んでもらった」「2 ときどき読んでもらった」を選んだ人だけ教えてください。だれに読んでもらいましたか。
(いくつでも○をつけてください。)

※この数値は割合ではなく、度数で表記しています。



〈その他〉

ボランティアの会で読書週間中に読んでもらった・親戚・近所の人・塾の先生・同居していない祖母・学習館の方・幼稚園の時の友だちのお母さん・児童館の先生・近所のお姉さん・友だち

問10 中央市全体の分析

9で、「1 よく読んでもらった」「2 ときどき読んでもらった」を選んだ人だけ
教えてください。だれに読んでもらいましたか。

- ・過去の調査と比べても「家族」「保育園・幼稚園の先生」が圧倒的に多い。家庭を巻き込んだ読書活動の重要性と必要性を感じる。

5. まとめ

この調査により、市内の小中学生の読書環境や状況等の実態把握ができたことは、中央市司書会として読書活動推進の一つとなった。

調査項目については、今後もさらなる検討が必要である。今回2年前との比較を試みた中でみえてきた「本を読むのがきらい」と答えた理由や「買う（買ってもらう）」と答えた回答の内容、「小学校から中学校への読書環境の変化」などの課題について調査を深めていくことの必要性を感じた。学校ごとの分析結果については、学校内での読書活動推進に役立てていきたい。

この調査にご協力いただいたことに感謝するとともに、各方面において活発な読書活動が行われたことに敬意を表す。

この「中央市読書調査結果」は、「中央市子ども読書活動推進計画（第2次）」に反映させた。

用語一覧

用語	説明
朝の読書	<p>「朝の読書」とは、授業の始まる前10分間に自分の好きな本を読むという運動。山梨県では総実施307校（92%）、小学校175校（98%）、中学校85校（89%）、高等学校32校（73%）が行っている。各学校では、全校一斉、学年ごと、学級ごと、授業ごと等、実施の方法はまちまちである。（平成24年2月3日現在、朝の読書推進協議会調べによる）</p> <p>（参考）「朝の読書推進協議会」 http://www1.-hon.ne.jp/content/sp-0032.html</p>
ブックスタート	<p>ブックスタートとは、絵本に関心の高い保護者だけでなく、すべての赤ちゃんと保護者を対象にした活動として、地域に生まれた赤ちゃんが集まる保健センターでの0歳児健診などで行われる。全国では、807自治体（46%）で実施しており、山梨県では、15自治体（56%）で実施している。（2011年12月31日現在、NPOブックスタート調べによる）</p> <p>中央市では、旧玉穂地区の「はじめての絵本」事業から引き継がれ、合併後は市の事業として実施している。</p> <p>（参考）「NPOブックスタート」 http://www.bookstart.net/index.html</p>
レファレンスサービス	<p>レファレンスサービスとは、利用者の調査・研究のために、どのような資料を使えばよいか、資料提示または情報の案内をお手伝いすること。自館にない場合、県内公共図書館や県外公共図書館・国立国会図書館から資料を取り寄せたり、大学図書館や専門図書館へ照会することも含まれる。迅速かつ的確な資料提供が求められ、図書館サービスの中心となる業務とされている。</p>
ブックトーク	<p>ブックトークとは、本を紹介するための1つの手だて。テーマを決め、そのテーマに関するいろいろなジャンルの本を集めて紹介する。子どもが、読書の幅を広げるのに有効。</p>

パネルシアター	パネルシアターとは、布を巻いた板（パネルボード）に専用の不織布で作った絵を貼り、お話しなどを楽しむ貼り絵のお芝居のようなもの。幼稚園・保育所のお遊戯会や図書館のおはなし会などでよく使われる。
ヤングアダルトサービス	ヤングアダルトサービスとは、おおむね12歳から18歳までの青年期利用者に対して、主として公共図書館が行うサービス。

活動支援施設一覧

施 設 名		施 設 名	
保 育 所		児 童 館	
市 立	玉穂保育園	市 立	玉穂中央児童館
	田富第一保育園		玉穂西部児童館
	田富第二保育園		玉穂北部児童館
	田富第三保育園		田富ひばり児童館
	田富北保育園		田富すみれ児童館
	豊富保育園		田富杉の子児童館
私 立	まみい保育園		田富中央児童館
			田富わんぱく児童館
幼 稚 園		立	田富ひまわり児童館
私 立	わかば幼稚園		田富つくし児童館
	みかさ幼稚園		とよとみ児童館
放課後児童クラブ		小 学 校	
市 立	玉穂中央児童館児童クラブ	市 立	三村小学校
	玉穂西部児童館児童クラブ		玉穂南小学校
	玉穂北部児童館児童クラブ		田富小学校
	田富すみれ児童館児童クラブ		田富北小学校
	田富杉の子児童館児童クラブ		田富南小学校
	田富中央児童館児童クラブ		豊富小学校
	とよとみ放課後児童クラブ	中 学 校	
(社)	また、あした	市 立	玉穂中学校
			田富中学校

平成24年3月

編集 中央市司書会

発行 中央市立図書館